

第5章 乾田直播のは種と栽培のコツ

1 播種機の調整（基本機の特徴とその調整）

POINT 1 乾田直播（トラクタ直装式・耕起播種機）

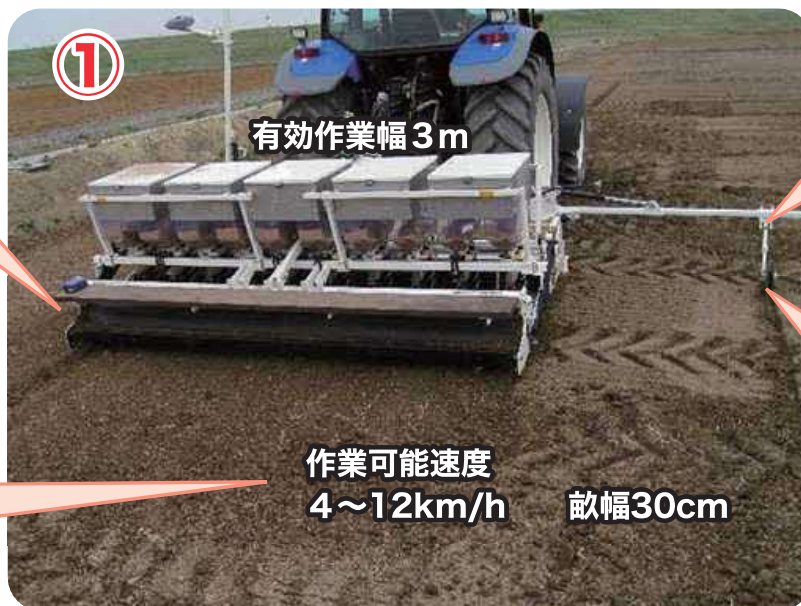
- (1) 岩見沢地域ではバーチカルハローシーダー（コンビネーションハロー）を基本とします。
- (2) トラクタは2.4m幅の作業機で90馬力クラス、3.0m幅の作業機で120馬力クラスが必要です。ホイール型・クローラ型の両方が装着可能です。
- (3) は種後に鎮圧作業が必須です。
- (4) 若干の機構の違いがありますが、バーチカルハロー（通称：パワーハロー）にヒッチにより、播種機（シーダー）を連結したものを、コンビネーションハローシーダーといいます。

POINT1

後方にある鎮圧ローラーの鎮圧は期待できない。高低差がなくなる程度。

POINT2

は種深度を確認しながら調整する。



POINT3

マーカースは直進するために重要な役割を持つ。

POINT4

ホイール型はラジアルタイヤ装着で旋回後がきれいになり、苗立ちムラを減らすことができる。

POINT5

オペレーターはモニターに映る速度・ロアリンク角度・回転数などの情報を参考にし、最高のは種状態になるように作業機を調整・運転する。



POINT7

ホッパーは大容量なので補充なしで50～200aは種が可能。

POINT8

バーチカルハローの砕土はあまり当てにしない！深くすると大きい土塊が上にくるので注意する。

POINT6

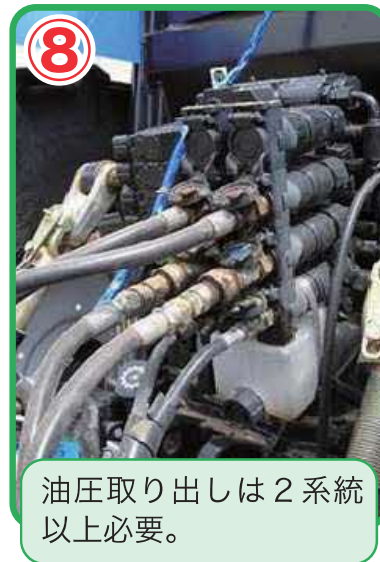
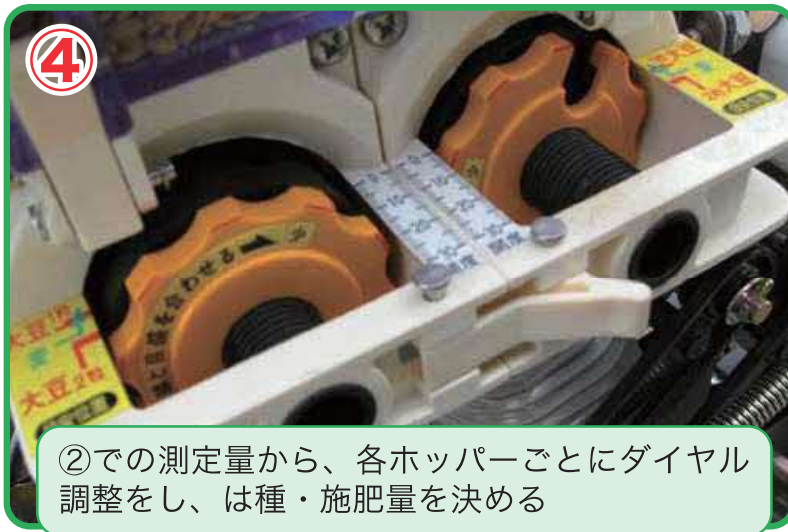
すべての畝が浅く均一には種されるよう調整する。
（作業機の自重により中心部が深くなる現象）



POINT9

は種後、種子の筋が見える程度が良好。

重要な POINT 耕起深2cm程度、は種深度を5～10mmに調整、作業速度4～12km/h





バーチカルハローは均平を乱さずには種が可能。耕起深は2 cm程度。土壌が極度に乾燥したときは、は種機の均平板に土を抱え込む場合があります。その場合は播種前にも鎮圧を行います。



ケンブリッジローラは自重が重く、複数の鎮圧輪で構成されるタイプが効果的です。



は種直後は、種子が3割見える程度が、ちょうどよいは種深度です。

は種後の鎮圧は、2回かけることを基本にします。夕方など湿度が高まると、土がへばりつきは種深度を乱します。（は種直後の降雨に注意し、作業計画を立てましょう！）

POINT

